

Mar.2024

たじみ昔かわら版 no.37

多治見の^{うぶすな}産土さま

しんらじんじゃ 新羅神社



産土さま：生まれ育った土地の守護神

何世紀にもわたり、地域の人々の心のよりどころとなってきた新羅神社。鎌倉時代にこの地を領有した多治見氏からも尊崇を受けたと伝わっています。

平成25～26年に修理された社殿は幕末に建てられたもので、尾張藩御彫物師 早瀬長兵衛一族による彫刻が見事です。現在では地域に密着した行事にも多く取り組み、暮らしに息づく神社としても親しまれています。

神社の歴史と神社名の由来

創建年は不明ですが、平安時代に編纂された『美濃国神名帳』にある土岐郡七社のうちの【^{たじみ}貫味明神】（その他表記として、黒味・異味もあり）にあたるといわれています。当初は貫味明神（八王子神）一柱を祭神としていましたが、鎌倉時代に清和源氏をはじめ全国の武士から信仰されていた武運の神、八幡神をあわせて祀るようになりました。室町時代に山城国（現在の京都府中南部）より主祭神として^{すさのおのみこと}素戔嗚尊を勧請し、以降は【新羅大明神】【新羅三社宮】と呼ばれました。明治時代に社号を【新羅神社】と改め、現在に至っています。



画像提供：新羅神社

社殿の建築様式と造形

社殿は、本殿と拝殿を幣殿でつなぐ「権現造」といわれる様式です。現在の社殿は弘化2年～嘉永元年（1845～48）にかけて建て替えられたもので、龍、猿、獅子、仙人など様々な意匠の彫刻がほどこされています。長年、池田の野村作十郎の彫刻



であると伝えられてきましたが、棟札調査から【尾張藩御彫物師】早瀬長兵衛とその一族の手によるものとなりました。

画像提供：多治見市教育委員会

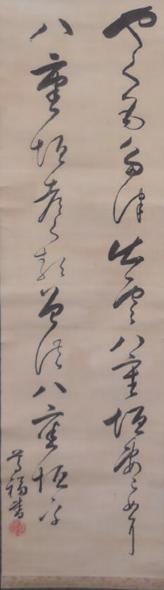
全国の神社とのつながり

【滋賀県 多賀大社】

両神社の祭神が親子の間柄になることからつながりを深め、多賀別当からは安政3年（1855）に【新羅三社宮】の額（上部右写真）を贈られています。また昭和初期に行われた多賀社大造営の折にも、旧本殿の御柱を譲り受けました。



多賀大社から送り出される荷車（御神木 多治見）の旗が立つ



千家尊福より贈られた和歌の軸「やくもたつ」

【島根県 出雲大社】

出雲大社の大宮司であった千家尊福とも交流があり、社司の篠原定治は出雲大社教の役職にも就いていました。

画像提供：新羅神社



昭和中頃の新羅神社 中央の建物（舞殿）は平成元年（1989）に建て替えられ、現在は拝所となっています

現代の取り組み

境内に祀られた恵比寿・大国像が人気で、初えびすにはたくさんの人が訪れます。



画像提供：新羅神社



また、地域の子どもへ向けた教育プログラムとして、米作りにチャレンジし、刈り取った稲わらでしめ縄作りを行う親子教室を実施しています。

多治見について調べるなら

郷土資料室へ



多治見市図書館郷土資料室

地域に関する資料や皆様から寄せられた文書や記録などを整理・保存しています。資料は、調べ学習や研究にもご利用いただけます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までどうぞ。皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供などもお待ちしております。

〒507-0034 多治見市豊岡町 1-55 ヤマカまなびパーク 4階 JR 多治見駅より徒歩5分 TEL. 0572-23-3783

開 室：火～土曜日 10時～17時（日・月・祝日・年末年始は休室） ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください。